



# お道の人を基礎を 子供の時分から

## 3月大教会教会長会議

立教187年3月22日

### 大教会長 片山幹太

# 本島通信

発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268  
**天理教本島大教会**  
電話 0877-27-3321 (代)  
本島通信編集室 R240323-0329-15  
奈良県天理市指柳町270-1  
本島話所 〒632-0093  
電話 0743-63-1571 (呼)

https://www.honjima.com  
Email: webmaster@honjima.com  
大教会 朝夕おつとめ時間  
【4月1日～4月15日】  
朝づとめ 午前6時30分  
夕づとめ 午後6時45分  
【4月16日～4月30日】  
朝づとめ 午前6時30分  
夕づとめ 午後7時00分

諭達第四号に、

「教祖おやさまお一人から始まったこの道を、先人せんじんはひながたを心の頼りとして懸命けんめいに通じ、私たちへとつないで下さった。その信仰を受け継ぎ、親から子、子から孫へと引き継いでいく一歩一歩の積み重ねが、まつたい未代へと続く道となるのである。」  
とお示し頂いております。

私の教友から聞かせて頂いたお話ですが、その方のお婆様が108歳でお出直しになりました。ご長命であつたお婆様には、子、孫、曾孫、玄孫といらっしゃって、おさづけの理を拜戴された方がこのお婆様お一人から78人も数えることができたと思えました。

このたび少年会本部より発行された育成ニュースには、年頭幹部会における真柱様のお言葉が掲載されています。その中で、

「そのお道の人としての基礎を、

子供の時分から作っていかうといふのが、天理教少年会であります。基礎というものは、目に見えない部分が多いけれど、表面に出ているものを支えて安定した状態を保つもので、その強度如何によって、善くも悪くも後々に大きな影響を及ぼすのであります。こう考えると、子供たちの心をしっかりと育て上げていくことは、道の将来を思えば思う程、大変重要な仕事であります。」

と述べられています。

さらに真柱様はその前段にて、「道を通る人とは、道専務に暮らしている人のことだけを指すのではないと私は思っています。道専務であろうとなかろうと、その人の心に常に親神様の思召があり、教祖のひながたを目標として、日々、親神様の御守護を身に感じてお礼申し上げ、心明るく勇んだ毎日を送ることを心しながら暮らしているなら、その人は、この道を通るお道の人であると思えます。」

とお道の人についてお教え下さいました。

まず私たちがお道の人としてその



基礎を身につけて、それを道の将来を担う子供たちに伝え移して行きたいと思えます。

108歳のお婆様をもつ教友のご家庭では、朝夕のおつとめ後、天理教少年会員の「ちかい」を唱えているそうです。

ちかいの最後は「立派なようほくに育ちます」とありますが、その時に横で彼は「立派なようほくに育てます」と、子供達と一緒に誓いを述べているそうです。

きつとその信仰が引き継がれ、78人のようほくが生まれているのではないかと思えました。

大切な子供たちは、親神様の子供たちでもありますので、大事にしっかりと育成させて頂きたいと思えます。

(文責・本島通信編集室)

# 「あしきをはらうて」 心のほこりを払い日々祈りを

大教会役員夫人 久尾智代  
ひさおさとよ

只今は晴天のご守護のもと3月の月次祭を、大教会長様を芯に陽気につとめさせて頂き、誠に同慶に存じます。御命を頂きましたので祭典講話をつとめさせて頂きます。

教祖140年祭への三年千日の歩みも2年目となりました。

諭達第四号は、立教185年10月26日の本部秋季大祭にて発布されました。



静まりかえった神殿で、真柱様がゆつくりと囁みしめるように諭達を読み上げられたそのお声に、私は有り難さがこみあげ、胸いっぱいに感動しました。

夫がマウイ教会長となり、私がかみ長夫人という立場で、これまで教祖年祭を二度歩ませて頂きました。これまで三年千日の年祭活動を意識して通っていたのかと言えはそうではなく、三度目の今回は後悔しないように勤めさせて頂きたいと思っております。

諭達が発布された月に、長男は本部教祖殿で結婚式を挙げさせて頂きました。私は次世代に信仰を伝えて行く責任も重く感じております。

結婚式後、長男はマウイに戻りました。査証手続のため日本に残るこ

とになった長男の嫁に、この先ハワイに来られるまでどれ程の月日がかかるのか分からないので相談したところ、大教会で伏せ込みひのきしんをさせて頂きたいとのことでした。

私は驚いて、ご実家のお母様や、ご実家が所属している教会の奥様にも確認したところ、大教会で伏せ込ませて頂くのが、本島の人となるの一番の早道であると言っておりました。

所属教会の奥様は、他系統から嫁がれてきたご経験から「大教会に参拝させて頂いても、初めはどうしても遠慮があり、思うように動かせませんでした。お客様のようになつてしまふことがあり、慣れるのに時間がかかりました」ともお話し下さいました。

そこで大教会長様にお願ひし、3ヶ月間ではありましたが、大教会長様、奥様はじめ皆様方のお心遣いとご指導を頂き、ありがたくひのきしんを勤めさせて頂くことができました。

その時、私自身は気づかなかつたのですが、今振り返ると、年祭の旬に乗って、親神様のお働きを頂いたのだと思っております。

続いて年祭活動の1年目は、世界ではコロナ禍も収まりつつあったので、教会ではコロナ以前と同様に祭典を勤めさせて頂くようにしました。元旦祭からみんなで顔を合わせ、和気あいあいと直会ができるようになったのも嬉しいことでした。

コロナ禍で長い間おちばがえりが出来なかつた信者さんたちも、今年是非帰らせてもらおうと明るい話題でいっぱいでした。さらに3月に結婚した娘の家と、5月にはサクラメントに住む二男のアパートに、それぞれ神実様をお祀りさせて頂きました。6月になると、会長はハワイ伝道庁で3年ぶりに開催された修養会講師として2週間勤めさせて頂きました。

結構すぐめの中、1年の後半には身上や事情も現れました。

会長は7月半ばから急に体調が悪くなりました。検査の結果、胃のあたりに悪性リンパ腫が見つかりました。幸い発見が早くステージ1と診断され、抗がん剤治療を始めることとなりました。

大教会ではお願ひづとめを勤めて下さり、私は電話で大教会長様にお願ひづとめのお礼と、身上は大難を

小難に治めて下さり有難かったとお伝えしたところ「大難や小難は目に見えますが、目に見えない無難にも親神様のご守護を感じて感謝しましょう」との言葉を頂きました。

確かに日々平穩に過ごしているうちにそれが当たり前となり、親神様のご守護への感謝の念が疎かになっていたのではないかと、改めて反省しました。

さらにマウイ島ラハイナでは8月8日、大規模な山火事が発生しました。たった一晚でこのような惨状を見せられ喪失感でいっぱいでした。テレビでは連日その悲惨な様子を流すばかりで、会長の身上と相まって気持ちには落ち込んでいきました。

ラハイナはマウイ教会初代会長である谷川米四郎先生が、片山好造會長様の命を受け、マウイ島で布教を開始した場所です。現在のマウイ教会は車で40分ぐらいのところに移転しておりますが、それまでの約50年間はラハイナに教会があり、そこで先人たちは教えを聞き、おつとめに集った大切な場所です。

私が結婚したときはすでに移転した後だったので、ラハイナの教会は知らないのですが、両親はじめ信者

さんたちからもその時代の話をよく聞いておりました。

ある日、教会の古い写真を整理したとき見つけた一枚の写真に、私は目が釘付けになりました。

それは初代会長の谷川先生と、私の祖父藤山春之助が、ラハイナの海岸を背に丘の上で撮られた写真で、1934年(昭和9年)のものでした。その昔、祖父がハワイ巡教をしていたことなどまったく知らなかったのも縁であつてのことだと思いました。

ここで少し谷川米四郎先生のお話をさせて頂きます。

谷川米四郎先生は1931年(昭和6年)8月、妻ヨシ、子息茂の3人でマウイに來られ、布教活動を始めました。ところが慣れない環境から茂が身上で出直し(昭和7年11月5日出直・享年18歳)、次いでヨシ夫人も肺を病み、帰国して大教会で静養されていましたが出直されました(昭和9年12月6日出直・享年47歳)。わずか3年余りの出来事です。どんなにお辛かったかと思えます。

そして谷川先生は1937年(昭和12年)9月3日、教会で倒れてい

られ、出直されているのが分かりました。

葬儀の後、信者の一人である久尾アヤノが遺骨を伴いおぢばがえりしたとき、片山好造會長様から2代会長として勤めるようお諭しがあり、なんと12月15日に教会長任命の理のお許しを戴いております。

谷川先生は身体が弱く厳しい環境の中、家族を失うという苦難に遭つても、マウイでおたすけに歩かれ、出直されるまでの6年間、教会に寄り来る信者を導き、さらに教会を後継する人材まで育てられました。教会では日々、深い敬意と感謝を捧げております。

話は戻しますが、私は昨年の秋、夫の身上や山火事情のふしが続いて気落ちしているとき、友人からもらった一冊の本を通して、「おつとめに込められた教祖の深い親心と、その大切さに気づくことができ、だんだんと活力が湧いてきました。おつとめの地歌は、慶応2年「あしきはらひ」に始まります。

慶応2年秋、教祖はみかぐらうたの第一節「あしきはらひたすけたまへ てんりわうのみこと」と、おつ

とめの歌と手振りとを教えられました。

続いて慶応3年正月から8月までに、十二下りの歌を作られました。

さらに明治3年には、よろづよ八首の歌を十二下りの歌の初めに加えられました。

併せて明治3年には、「ちよとはなし」の歌と手振りとを、同8年には、「いちれつすますかんろだい」の歌と手振りとを教えられ、ここにかんろだいのつとめの手一通りが初めて整いました。

さらに明治15年に、手振りは元のままながら、「いちれつすます」の句は、「いちれつすまして」と改まり、それに伴って、「あしきはらひ」もまた「あしきはらうて」と改まりました。

かぐらづとめでも、それぞれの教会のおつとめも、「あしきはらうて」を何度も唱え、手を振ります。

友人からももらった本には「あしきはらうて」に教祖が深い意味を込められていると悟らせていただく」と記されていきました。

それから私は自教会では、会長と二人しっかりと手を振っておつとめをさせて頂くことにしました。「あ

しきをはらうて」と手振りをすると、神がほうきとなってあしきをおうというお言葉が浮かび、日々心のほこりを払いながら親神様に祈ることを決しておるそかにしてはいけな

最後になります、論達第四号を毎日拜読させて頂いておりますが、私が最も心を動かされる言葉は冒頭にある「全教の心を一つにしたい」です。

皆が一つの向きに心を揃えるといふのは容易なことではありません。おさしづに

「一手一つ理が治まれば日々理が栄える。大き一つ心の楽しみ」

「一手一つに皆結んでくれるなら、どんな守護もする。」

とあります。(明治31年1月19日)

また先人のお諭しに、「教会や一家が盛んでないのは、人々の心が一手一つになつて、神様のお働きを受けるだけの心の足場ができていないから」と聞いたことがあります。

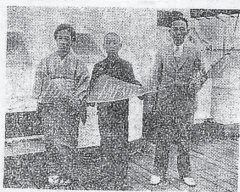
私は昨年からのふしを通して、おつとめの大切さ、おさしづけの有り難

さ、そしてご守護を願う上に一手一つの心の向きを揃えることの重

要さを学びました。これから先も、身上や事情、また自然災害等がいつ起こりうるかも知れませんが、親神様の思召を温ねながら、ふしから芽が出るよう勇んで勤めさせて頂きたいと思

います。ご清聴ありがとうございます。(文責・本島通信編集室)

本島通信 第五十三号



マウイ教会設置の御許しを戴いてより大阪出張所で渡布の準備に忙殺されてゐた谷川米四郎氏(左)と夫人(中)と令息茂君(右)を伴ひ一路傳道地に向はれた。

海外布教部通信

マウイ教会長 谷川米四郎氏一家

任地へ向ふ

マウイ教会設置の御許しを戴いてより大阪出張所で渡布の準備に忙殺されてゐた谷川米四郎氏(左)と夫人(中)と令息茂君(右)を伴ひ一路傳道地に向はれた。然るに教祖五十年祭立教百年祭の御唱ありてより俄然教内に捲き起つた日本全国民検閲者化と海外傳道の大運動は遂に氏を以て遠く太平洋の眞只中に送り出す事となつた海外に不思議な因縁を持つて常にその第一線を行くべき使命を擔ふ本島内の者にはその大使命が何時如何なる形によつて誰に下されるかわからないのである。玄海灘から谷川氏をして太平洋に乗り出させたのも一に此の神意に基く不思議な力と今此の上に覆ひ被さつてゐる時局の理によるの外ないである。一歳前まで恐らく氏自身としても夢想だにしなかつた事だらう。不思議こそ神の姿だ。さあこれ々の中に道はない。刺戟の道を

布教部報告(3月分) 数字は本年の提出回数です

にをいげ名簿提出教会 (3月)			おさづけ取次報告教会 (3月)		
榊 太 3	本千代 3	雅 峰 3	本 島 3	本 攝 3	豪 峰 3
本 田 中 2	本 攝 3	吉 峰 2	本 太 3	本 泉 3	倉 峰 3
本 倉 岡 2	攝 津 2	神 峰 1	本 倉 岡 2	本 太 萩 3	雄 福 峰 3
本 本 榊 3	本 太 2	豪 峰 3	本 本 榊 室 2	本 本 萩 川 1	雄 山 峰 2
本 室 2	本 萩 3	倉 峰 3	本 本 室 谷 2	本 水 島 2	栄 東 峰 3
本 本 谷 2	撫 川 1	雄 福 峰 3	代 々 木 2	本 安 藝 本 中 2	靈 峰 2
代 々 木 2	本 山 海 1	栄 森 峰 3	本 本 代 2	本 備 前 3	實 峰 1
本 萬 代 2	安 藝 本 中 1	栄 星 峰 2	本 本 京 3	本 府 中 3	大 松 峰 3
本 本 都 3	本 備 前 3	栄 東 峰 3	本 本 道 盛 3	本 沖 浦 3	大 駿 峰 3
本 本 京 3	本 府 中 3	靈 峰 3	本 本 草 3	本 本 龜 2	別 峰 3
本 本 草 3	本 浦 3	實 峰 3	本 本 護 2	本 清 水 2	吉 松 峰 3
本 本 護 3	本 清 水 1	大 隅 聖 峰 3	本 本 三 惠 3	本 崇 島 2	大 英 峰 3
本 本 三 惠 3	本 崇 徳 3	大 駿 峰 2	本 本 惠 山 3	本 本 高 3	肥 後 八 峰 3
本 本 惠 明 3	本 宣 道 2	大 英 峰 3	本 本 静 濱 2	本 本 陽 山 3	銀 新 信 峰 2
本 本 静 濱 2	本 九 3	肥 後 八 峰 2	本 本 日 米 3	本 本 肥 港 3	都 峰 3
本 本 静 森 2	本 陽 山 3	鶴 峰 3	本 本 米 里 3	本 本 新 田 3	仙 峰 3
本 本 日 米 3	本 肥 港 2	都 峰 3	本 本 米 千 3	本 本 赤 峰 3	ミッドイスト 2
本 本 米 里 3	本 新 田 3	仙 峰 3	本 本 千 賀 3	本 本 赤 峰 3	ハリウッド 3
	赤 峰 3			本 本 赤 峰 3	ウィルソン 2
				本 本 赤 峰 1	シートツク 2
計 60 教会 606 名			計 71 教会 1,570 回		

本島通信第35号(昭和6年9月10日発行)にマウイ教会初代会長の記事が残されています。

「マウイ教会設置の御許しを戴いてより大阪出張所で渡布の準備に忙殺されてゐた谷川米四郎氏は去る八月二十四日兵庫県庁の身体検査が無事合格したので急遽二十五日神戸港より大洋丸で夫人ヨシ姉令息茂君を伴ひ一路傳道地に向はれた。(後略)」

海外布教部通信

マウイ教会長 谷川米四郎氏一家

任地へ向ふ

# 三日月次祭 祭典役割

**献饗長** 岩橋竜造  
**伝供** 平井真治郎・向所隆文・永島宗行・大上道徳・奥村龍夫・伊東康成・高垣光治・片山直明・高島栄造・横関茂治・長尾海和・岩橋守行・白垣初生・香川勝巳・宮路和徳・鎌田典夫・滑川善久・大矢万三・村田輝夫・古井信・

上山康雄・川村吉夫・時久英次・溝口晋太郎・片山好次・江草克二  
**雅楽奉仕者** 文岡育則・池田恒治・片山秀明・香川高範・上山薫・伊東賢太郎・鎌田康典・伊東慎平・白垣俊生（順不同）

神殿講話	胡三味線	小琴	すりがね	太鼓	拍子木	ちゃんぽん	てをどり	地方	座りづとめ	てをどり前半	てをどり後半
	久尾智代	片山榮	長尾澄子	片山孝代	窪田靖明	岩橋慶三	井上哲	西山道教	片山直明	鎌田典夫	茶屋原良昭
	岩橋元実	井上みつの	向所暉美子	岩橋守行	横山富明	高島栄造	宮路和徳	吉田知彦	村田輝夫	岡崎むつゑ	長尾善絵
	梅木澄代										

## 三日月次祭祭文

立教百八十七年三月二十二日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様には一れつの子供の陽気ぐらしを楽しみにこの世人間をお創め下され昼夜を分かたずお見守りお育て頂き妙なる自由の御守護のもとに幾重の道すがら恙がなく結構にお連れ通り下さいます御高恩の程は誠に有難く勿体ない極みでございます

私共は届かぬながらも教祖の道具衆としての自覚のもとにたすけ一条の御用に勇んで努めさせて頂いておりますが分けても今日の吉き日は当大教会の三日月次祭を執り行う日柄を迎えましたので役目に与るおつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて只今から座りづとめてをどりを陽気に勇んで勤めさせて頂きます

御前には春の訪れを身近に感じながら喜びの心も一入に帰り集いました本島の道につながる一同が日頃賜る厚き御恵みに御礼申し上げつつおうたを唱和して尚も変らぬ御守護にお継りする真実の状をも御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

この月二十七日・二十八日の両日おちばでは「春の学生おちばがえり」が開催されまた大教会では二十八日から四月一日まで「少年会本島団鼓笛隊第百十一回春季合宿」が実施され更にこの合宿に併せて婦人会本島支部が「MOMOの会」と「応援ひのきしん」を計画され積極的な育成体制のもとに一手一つに成人の歩みを進めさせて頂く所存でございます

尚来る四月十七日には二回目となる「教会長夫妻おたすけ推進のつどい」を本島詰所に於て開催させて頂くに当りご本部より本部准員松村孝吉先生の講話を戴く等教祖百四十年祭に向つてたすけ一条の心を確かめ合い心明るく勇んで歩みを進めさせて頂きたいと存じます

そして翌日の四月十八日には二百二十六回目の教祖誕生祭をこぞつてお慶び申し上げ翌十九日の「第百六回婦人会総会」の開催には多くの人達が親の思いに心を揃え教祖にお慶び頂きたいと存じます

何卒親神様には世上にお見せ頂く様々なふしを私共を陽気ぐらしへと向かわせたいとの親心の現れと受け止め今後の歩み方を教祖の御教えに照らしてたすけ一条に邁進させて頂けますようお願い申し上げます

程一同と共に慎んでお願い申し上げます  
 (原文のまま)

## 入社祭

(立教187年3月22日)

▼本樺△阿部祥大 ▼安藝本中△池田こみち  
 【計2名】

3月22日(木)

【香川県丸亀市】

天候 晴一時薄曇  
 最低気温 1.8℃  
 最高気温 12.0℃  
 平均気圧 1021.1 hPa  
 平均湿度 59%  
 平均風速 2.3 m/s  
 日照時間 9.6 時間  
 降水量 0.0 mm

### 本米分教会移転鎮座奉告祭

本米分教会(白鳥有子会長、神奈川寒川町)では、昨年12月26日のお運びで神奈川県高座郡寒川町宮山1846番地2への移転の理のお許しを頂いておりましたので、3月3日大教会長夫妻を迎え、移転奉告祭を執り行いました。参加者63名。

本米分教会は白鳥徳右衛門5代会長の時代、昭和28年7月27日に横浜市南区中島町へ移転建築のお許しを頂いて今日に至っております。建物は教会の所有名義でしたが、土地は借地であったため、地



権者と長期賃貸契約を交わしていました。ところが昨年3月頃、新しい地権者から早期に立ち退くよう通告を受けたため、役員や信者をはじめ部内教会長とも話し合い、移転地を探すことに決定し、教会に最適な物件を探し求めていたところ、同じ神奈川県内の高座郡寒川町に、本部お預けになった堺大教会部属、東堺分教会の土地建物を紹介されました。

この建物は神殿、神床もおちび方向に正対して建築されており、さらに本部お預けになった後も信者が建物の管理や掃除に足を運ばれ、行き届いた物件だったため、教会一同協議を重ねた上で、上級教会の賛同も得て、購入し移転する運びとなりました。

奉告祭当日は晴天の恵みを頂いて、午前11時より祭典を執り行いました。

挨拶に立った大教会長は「教祖年祭活動の始まりに、大き

なふしをお見せ頂きましたが、皆さまの真実心とご尽力を頂き、今日の日を迎えられたことは誠に有難いことだと思えます。不思議な出会いに感謝するとともに、本米にとつては新たな土地で、一日も早く地域に溶け込み、親神様・教祖の御教えを弘めるための種まきをして、地域に根ざした教会となるようお願いいたします。」と述べられました。

### 春季霊祭役割

雅楽奉仕者 池田恒治・片山秀明・香川高範・伊東賢太郎・内橋和博・鎌田康典・伊東慎平・香川靖幸(順不同)

なお奉告祭に先立ち、前日の2日午後6時より鎮座祭を執り行いました。

### 霊峰初代会長40年祭

霊峰分教会(宮路和徳会長、宮崎県都城市)では3月14日午前11時30分より、同教会初代会長宮路正道40年祭を、向所隆文赤峰分教会長祭主のもと執り行いました。参加者は約50名。



祭主 大教会長  
指図方 老木邦光  
扨者 寺本教生  
贊者 西山道教  
茶屋原良昭  
原口 実  
岩橋竜造  
岡崎八十則  
大上道徳  
伊東康成  
片山直明  
片山直明  
横関茂治  
岩橋守行  
川村吉夫  
川村吉夫  
片山好次・江草克一

てをどり	地方	てをどり前半	てをどり後半
笛		老木邦光	吉田晴雄
ちゃんぽん		西山道教	片山直明
拍子木		平井真治郎	宮路和徳
太鼓		大教会長	篠原丕王
すりがね		片山 勲	奥村龍夫
小鼓		寺本教生	高垣光治
琴		会長夫人	西山美智子
三味線		池田さわみ	岡崎むつゑ
胡弓		片山孝代	片山眞喜代
		岩橋竜造	吉田知彦
		向所隆文	江草克二
		岩橋慶三	永島宗行
		井上 哲	大上道徳
		窪田靖明	田中丸勝也
		岡崎八十則	伊東康成
		片山やすゑ	吉田要子
		長尾澄子	佐藤道子
		向所暉美子	上潟口節子

### ろくち会 (立教187年3月分)

▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真実・幸太 ▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜分教会 ▼崇徳分教会△菅岡新あゆみ ▼本高分教会△菅岡新 ▼ポトランド△片山和信・陽子・昇慶・竜次  
ご芳志に厚くお礼申し上げます

### 事情はいづ

立教187年3月、本島関係のお運びはありませんでした。

### おさづけの理拝戴

(立教187年2月分)

吉松峰 宮林初実

【計1名】

### 教人資格講習修了

(立教187年3月12日付)

大松峰 松下尚一

【計1名】

### をびや許し

(立教187年2月分)

同朋 中村裕美子  
本陽山 大西百恵  
本陽山 宮地麗奈  
鶴峰 吉田めぐみ

【計4名】

■片山幹太郎君(大教会長夫妻の長男)は2月25日より、本部青年見習いづとめが始まりました。

### 大教会長動向

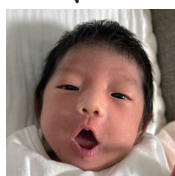
▼4月(予定)▲

- 3日、香川教区役職者会議
  - 8日、本柳分教会巡教
  - 10日、与島分教会巡教
  - 11日、本豊後分教会巡教
  - 14日、大教会月次祭執行
  - 17日、教会長夫妻  
おたすけ推進のつどい
  - 18日、教祖誕生祭参拝
  - 19日、天理教婦人会総会
  - 24日、修養科門出まなび
  - 25日、かなめ会委員会
  - 26日、本部月次祭参拝
  - 27日、かなめ会
  - 29日、全教一斉ひのきしんデー
  - 30日、本部神殿奉仕当番
- 以上

### 誕生おめでとう

片山葉和さん

(令和6年3月8日生まれ、本島大教会)



### 学生生徒修養会 大学の部

(立教187年3月4日～8日)

- ▼本島△片山好次 ▼實峰△山内智子△山内彰子 ▼吉松峰△宮林初実 ▼仙峰△向所純平
  - ▼与島△岡崎希恵
- 【計5名】

### 学修 高校卒業生コース

(立教187年3月10日～12日)

- ▼本島△片山昇太 ▼本亀△長尾直太郎
  - ▼本太△佐藤祥子
  - ▼本廣△白垣俊生
- 【計2名】

### 証拠守り下附

(立教187年2月分)

倉峰2

【計2名】



【教会の掲示板】  
本島ドットコムよりダウンロードできます

### すき間のおはなし

#### ひとさし指の手について

思い返せば高校時代からになるので、約40年間ずっと思ってきたことがあります。それは、「十下り目のおてふり、人差指の手が多いのではないか」問題です。

この場合、人差指の手とは、例えば右人差指で「前方を指す手」とか、両人差指で腹前に「平らに円を描く手」など、動作に人差指を使う手のことです。

実はおてふり試験で十下り目が当り、どうしても思い出せなかったところ、なんとなく人差指を出したらなんとかなった、という成り功体験から、私の心に深く刻まれることになったのです。

でも実際のところどうなのでしょう。数えてみることにしました。すると十下り目では人差指が計12回も出てくるのがわかりました。出てこないのは三ツと九ツだけです。

ちなみにてをどり後半から数えてみると、七下り目が8回、八下り目が10回、九下り目が6回、十一下り目が8回と、相対的に人差指は十下り目に多いことがわかりました。

「やはり十下り目が一番だ」と結論づけようとした矢先、目を疑う結果が現れてきたのです。それは十二下り目です。

「だいく」のとき左人差指を使うのが3回。「とつりよう」では左右に一の字に引き分けるとき両人差指を使うのが4回。「しかけた」や「ございく」では右人差指使って叩いたりえぐるように回したり、という具合に、十二下り目だけでなんと人差指が19回も発生するので

す。圧倒的な結果に、目から鱗が落ちる思いがしました。

ちなみに第2位は「よろづよ八首」の17回。「といて」「さかした」のように「口許を指す手」「右耳を指す手」と2種連続で出てくるのが4セットあったのが大きかったです。

一方、一番少なかったのは、四下り目で0回でした。最後までお話しに付き合ってく下さり、ありがとうございました。(むかいじよ)





### 教会長夫妻おたすけ推進の集い

- 日時：立教187年4月17日(水) 午後1時より
- 会場：本島詰所4階講堂
- 参加御供：1名につき500円
- 対象者：前回(1月25日)参加していない教会長ならびに配偶者、直属教会長が認めた者
- 講師：松村孝吉先生(本部准員)
- 参加申込書を4月14日まで大教会総務へご提出ください。
- 詰所の宿泊・食事の申込みは各自で詰所事務所へご予約ください。

### 教祖お誕生まつり

- 4月14日、大教会祭典終了後、全員で「教祖御誕生讃歌」「おやさまおうまれ」「教祖御誕生祝歌」を斉唱し、お祝いさせていただきます。

### 大教会4月月次祭ライブ中継

- 対象：4月14日大教会4月月次祭に帰参できないため、ライブ中継視聴を希望する方
- 申込方法：メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
- 申込締切：4月13日午後5時まで
- ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。

<https://www.honjima.com/>

### 婦人会第106回総会

- 日時：4月19日(金) 午前9時30分式典
- 場所：本部中庭

- 日時：4月18日夕づとめ終了後
- 場所：本島詰所4階講堂
- 内容：支部長挨拶、講話(斉藤かよ 本島支部長)
- 参加御供：一委員部1,000円

- 日時：4月19日総会終了後
- 場所：本島詰所4階講堂
- 人数確認のため、所定用紙に記入の上、4月14日まで直轄ごと婦人会庶務へご提出下さい。
- 尚、19日ふりかえり終了後、お弁当をお渡ししますので、併せて人数をお知らせ下さい。

- 手作りの品(おふきん、手芸品など)または賄い料
- 4月18日午前7時までに北棟2階婦人会事務局までお届け下さい

### 野球部応援バザー

- 本年6月29日に実施される全教野球大会香川県予選を目指して、毎月21日(4月は13日)、大教会において応援バザーを実施します。皆さまぜひご協力ください。

### 教会地名変更

吉松峰分教会 地名変更後の住所 静岡県浜松市中央区佐藤2丁目3番2号



は、本島ドットコムより関連資料をダウンロードすることができます。トップページ>各種ダウンロード

### 能登被災地ひのきしん

- 日程：本備前分教会発着 4月19日午後10時本備前分教会出発 4月20日珠洲市にてひのきしん活動 4月21日午前8時現地出発、本備前分教会帰着
- 拠点：珠洲ひのきしんセンター (石川県珠洲市、寶立分教会)
- 参加御供：3千円
- 申込締切：4月8日

### 4月ひのきしん派遣依頼

- 期間：4月13日～14日
- 派遣：赤峰
- 期間：4月17日午前8時～ 4月19日婦人会行事終了後
- 派遣：本京①、本海①、本柳①、那波①、本承德①、本福①、本府中①、安藝本中①、赤峰②
- 期間：4月25日～26日
- 派遣：撫川①、崇徳①

### 統計 (2月1日～29日)

教会名	初席	中席	喜望	修繕料	教人講習	検定講習
本島	1	1				
本樺太	1					
本樺				1		
本都	1					
本千代	1					
本吹田		1				
崇徳	1					
赤峰	1					
神峰	2					
吉松峰	1		1			
鶴峰	1	1				
合計	10	3	1	1	0	0